

木曽地方の温帯性針葉樹林の保護・復元に向けた取組第1回検討委員会概要

開催日時及び場所	平成25年9月13日（金） 13:00～ 中部森林管理局大会議室
検討委員	<p>青山 節児 （中津川市長） 飯尾 歩 （中日新聞社 論説委員） 池田 聡寿 （池田木材（株） 代表取締役社長） 植木 達人 （信州大学 教授） 大住 克博 （（独）森林総合研究所関西支所 主任研究員） 志水 弘樹 （志水木材産業（株） 代表取締役） 田上 正男 （上松町長） 野村 弘 （木曽官材市売協同組合 理事長） 早川 正人 （付知町づくり協議会 会長） 山本 進一 （名古屋大学 名誉教授） 山本 博一 （東京大学大学院 教授） 湯本 貴和 （京都大学霊長類研究所 教授） 横山 隆一 （（公財）日本自然保護協会 常勤理事）</p> <p>検討委員 13名 うち青山委員（農林部長代理出席）、飯尾委員、植木委員及び湯本委員欠席</p>
議事内容	<p>(1) 木曽地方における温帯性針葉樹林の保護・復元に向けた検討の目的等について (2) 木曽地方の国有林について (3) 木曽地方における温帯性針葉樹林の保護・復元についての考え方（案） (4) 今後の進め方（案）</p>
概 要	<p>○ 木曽地方の温帯性針葉樹林の保護・復元に向けて取組むこと、保護・復元に取組むために3つの区域を設定すること及びワーキングチーム設置を含む今後の進め方について了承を得た。</p> <p>○ 委員からの主な意見は次のとおり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒノキのみにこだわるのではなく、広葉樹も混交するような温帯性針葉樹の森林になることを許容するべきだと考える。 ・復元区域は最初から広く取るのではなく、種子の飛散距離を考えて狭い範囲から始めて徐々に広げていけばいいのではないか。 ・保護林に設定し人手を加えなくなつてからヒバが大きくなってきている。木曽のヒノキ林は手を掛けないと維持できない。ヒバを伐つてヒノキ林を維持するということも行っていくべきではないか。 ・復元区域について、天然生林はこれ以上の伐採を行わないとしているが、天然更新のためには伐採も行う必要があるのではないか。 ・木材供給への影響がどの程度かということが問題であり、具体的な数字が出なければわからない。 ・木材産業のことを考えると一定程度の生産は継続して、地域経済を回していかなければならない。また木の文化を継承していくことも必要である。今回の検討は産学官で連携して将来木曽にどのような森林を残していくかを考えていく良い機会だと考えている。 ・伐採が全く出来なくなるなど極端な話ではなく、300年後のために取り組むということは良いと考える。 ・3つのゾーンの名称は20世紀的な名前だと思う。将来にわたって森林をどう管理していくかということを考えていく取組にふさわしい名称にすべきではないか。 ・三浦の実験林の結果をこの機会にまとめ直すべき。 ・倒木更新についても考えるべきではないか。